

# Action Plan M'2025



アクションプラン M'2025 (2021~2025年)



学校法人明秀学園  
明秀学園日立高等学校

〒317-0064 日立市神峰町3-2-26  
TEL.0294-21-6328 / FAX.0294-21-6341  
URL.<http://www.meishu.ac.jp>



学校法人 明秀学園の5カ年計画

Five - year plan of Meishu Gakuen educational foundation



# Action Plan M'2025



## 目次

理事長あいさつ、校長あいさつ	2~3
1. 伝統の継承	4
2. 全日制 M'2025 改革の理念	5
3. 全日制 M'2025 スクールミッションと経営目的・教育目的	6~7
4. 全日制 GSコースの創設	8
5. 全日制 アクションプランM'2025『図解』	9~10
6. 全日制 新学習指導要領に対応したコース別教育課程の改訂方針	11~12
● 特進ST・Sコースの沿革にみる「特進化」の歩み	13~14
7. 通信制 M'2025の概要	15~18
8. 通信制 M'2025『図解』	19~20
● 本校の歩み	21~25
確かな明日をめざして	26

## 伝統と革新を備えた明秀学園を目指して

2025年9月、明秀学園は創立100周年を迎えます。今回のアクションプランの最終年度がちょうど100周年に当たります。先行き不透明なこれからの5年間をいかに健全かつ着実に発展させていくかについて、今後取るべき行動の基本計画を作りました。「あくまでも、地域や生徒とともに」をモットーに「確かな明日」を迎えるための施策を網羅しました。



教育はその語義に明らかなように、人間が本来秘めているものを引き出す(エデュケート)ことではないかと私は考えています。福沢諭吉は「教育の力はただ人の天賦を発達せしむるのみ」(福翁百話)と言っています。本人が自らの天賦に気づき、学びの価値を見出すことで教育は始まります。生徒を樹木に喩えれば、水を注ぎ、害虫を除き、適宜肥料を施し立派に成長させるのが教師の役割といえるのではないのでしょうか。本校はこれからも生徒が自ら問題を発見し、その解決に向け努力する姿勢を励まし、応援していきます。

これまで同様アクションプランが明秀学園に関係する一人ひとりにとって、過去を振り返り将来を展望する際のベクトル合わせの拠り所となることを期待しています。計画・実行・反省のサイクルを回転させ、諸先輩たちが築き上げた伝統の上に「絶えず前進」を合言葉に改革の灯を消すことなく、永遠に「輝く明秀」であり続けることを願ってやみません。

学校法人 明秀学園  
理事長 小野 勝久



## 多様性を認め、 新しい発想を生み出す全国区の学校

本校は学祖荒川まん先生の「建学の精神」「校訓」以来の伝統を継承し、2013年度よりアクションプラン(M'2017・M'2020)の下に学校発展の礎を築いてまいりました。生徒・保護者・教職員一体の「三者同行」の精神で教育に取り組み、地域や同窓生のご支援を賜って、お蔭様で現在全日制・通信制合わせて約1700名の生徒が在籍する、県北地域で最大規模の高校となるまでに成長いたしました。これまで尽力された皆様に心から感謝申し上げます。



全日制は「全国区の学校」になることを目標に掲げ、国公立大学合格79名(2018年度)、野球部初の甲子園出場(2018年)、サッカー部・女子ゴルフ部の3年連続全国選手権出場(2019年)、吹奏楽部初の東関東大会出場(2019年)等を達成しました。また、バーンサイド高校(オーストラリア)、リシクル学園(インド)とフレンドシッププログラムを結び、世界で活躍するためのプログラム整備にも力を入れてまいりました。通信制は独自のスマイルサポーター制度を導入し、全日制を併設した狭域校の中で、全国一の在籍数(2019・2020年度)を誇るまでとなりました。

こうした成果と新たな情勢に適切に対応し、本校が永続的に光輝く学校となり、ダイバーシティが尊重される社会の実現を目指し、スクールミッションを定めて新たな目標を掲げました。2025年に、本校は創立100周年を迎えます。多くの皆様と教育の成果を分かち合い、盛大な式典が挙行されることを願っています。何卒、アクションプランM'2025の趣旨をご理解いただき、皆様方のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

明秀学園日立高等学校  
校長 矢野 正彦

# 1 伝統の継承

1925年

### 建学の精神

明るく 清く 凛々しく

### 校訓

至誠 敬愛 自律 勤勉 協力

1996年

### 教育の本旨

この門に入る者、明秀の人たるべし  
この門に在る者、百錬の人たるべし  
この門を出づる者、千秋の人たるべし

### 教育の指針

教師・生徒・父母三者の触れ合いを密にし、生徒の人間形成を図り、その進路実現を推進する(三者同行)  
理想は遠大であれ、目標は小なりといえども堅実であれ(知行不二)  
「常凡の妙」を発揮すべし。「団栗の背競べ」ならぬ<団栗の知恵競べ>をせよ(逆転発想)

2008年

### 目指す学校像

- ① 生徒のステップアップを実現する明秀学園日立高校
- ② 基本的な生活習慣を身につけさせ、生徒の自立・自律を促す明秀学園日立高校
- ③ 生徒一人一人に居場所・出番のある明秀学園日立高校
- ④ 全国大会に出場・活躍できる、強い部活が豊富な明秀学園日立高校

### 目指す生徒像

- ① 明るく、元気な挨拶ができる生徒
- ② 自ら進んで行うことができる生徒
- ③ 素直な心を持ち、学ぶ力のある生徒
- ④ 思いやりを持ち、互いに助け合う生徒

### 目指す教職員像

- ① 常に研修に励み、成長しようと心がける教職員
- ② 切磋琢磨し、互いに助け合う教職員
- ③ 生徒・保護者に信頼される教職員

2013年

### 経営目的 アクションプラン M'2017

安定した生徒数の確保 ————— ST・Sコースの拡大  
施設・設備の充実

### 教育目的 アクションプラン M'2017

骨太な全人教育 ————— 将来にわたり学び続ける力の育成  
品格ある進学校 ————— 他者と共に生きる力の育成  
生き抜く力の育成 ————— 健やかでたくましい心身の育成  
面倒見のよい安心安全な学校 ————— 卓越性の追求



1940年(昭和15年)当時の教職員





## 2 全日制 M'2025 改革の理念



## 3 全日制 M'2025 スクールミッションと経営目的・教育目的

- スクールミッション 学びに価値を見出し、セルフリーダーシップを発揮できる生徒の育成  
多様な価値や人間と出会い、豊かな人間性を涵養する学校の創造
- 経営目的 永続的に発展する学園
- 教育目的 ダイバーシティの追求

### (1) 今後の学校経営

止まることを知らない少子化の進行、地方の停滞など私学を取り巻く環境は日々厳しさを増しています。中学校卒業生の減少を見込んで、県立高校ではエリアごとに中高一貫教育校を設置する一方で、その他の高校については統廃合や学校規模の縮小、学科構成の変更、学校同士での共同の学びを進めようとしています。少子化が一層深刻な県北地域にある本校も、2025年度以降の適切な全日制生徒数を考える「適正規模検討委員会」を設けて、健全かつ持続的に発展する学校経営を目指すことにします。

文部科学省は「社会的変化が、人間の予測を超えて進展する」「複雑で予測困難な「2030年とその先の社会」に向けて学習指導要領を改訂し、「社会に開かれた教育課程」の実現をうたい、世界的に流行しているコンピテンシーの学校教育版である資質・能力を「主体的・対話的で深い学び」により育成していくことを学校に求めています。また文部科学大臣の諮問を受けて、中央教育審議会で「生徒の学習意欲を喚起し能力を最大限伸ばすための普通科改革などの学科の在り方」の議論が始まりました。



### (2) 新カリキュラム制定とスクールミッションの策定

こうした中で本校では2019年度から新カリキュラム制定委員会を立ち上げ、学習指導要領や教育情勢の分析を進め、その上で本校の立ち位置や社会的使命をどのように定めていくべきなのかについて検討を進めてきました。本年度新カリキュラム制定の作業を進めるとともに、本校の未来を担う若手教員からなるミッション再定義小委員会を設置して、スクールミッションの審議を開始しました。ミッション再定義小委員会の最終答申を受けて、本校は二つのミッションを策定しました。ひとつはコンピテンシーにかかわるものであり、もう一つはコンテンツにかかわるものです。学校は生徒の学びと教師の教えの相互関係の上に成り立つものであり、両方の使命を明記することが不可欠と考えました。





## 4 全日制 GSコースの創設

### (3) ダイバーシティの追求 (3つのコンピテンシー)

「学びに価値を見出し、セルフリーダーシップを発揮できる生徒の育成」「多様な価値や人間と出会い、豊かな人間性を涵養する学校の創造」というスクールミッションのもと、本校はダイバーシティを追求していきます。県立高校は同一レベルの学力層で選抜され、茨城県内に限られた比較的均質な生徒が集まっています。それに対して、本校は学力も出身地域も多様な生徒が集まり、有用性という価値だけでなく真善美にかかわる多様な価値を大切に、生徒に様々な出会いを用意していく学校づくりを目指していきます。こうした本校での生活を通して、生徒に3つのコンピテンシー（クリエイティブ・マネジメント・ホスピタリティ）を育成していきます。



### (4) 全国を目指す県北一の進学校

全国的な視野に立ちつつも、地域の子ども・保護者から信頼され、期待される学校となるために「全国を目指す県北一の進学校」を目標としました。これは2007年度に全校特進化して以来掲げ続けてきたものですが、今回のアクションプランでは3つの分野に整理し直し、バージョンアップしました。一つは「特進プラスアルファ」であり、2022年度からGSコースの募集（1年次STコースに在籍し、2年次よりGSコースカリキュラム）を始め、新たな数値目標を設定して「体質強化とブランド化」を図っていきます。二つ目は「トップA・A（アスリート・アーティスト）」の育成です。スポーツや芸術は個々の成長だけでなく、人や地域を結び付けていく大切なものです。幸いにも伝統をつなぎ定評を得ているスポーツだけでなく、芸術分野でも新たな伝統づくりを目指していきます。三つ目は「多様な教育活動」です。まず基本となる日々の授業では生徒が学びに価値を見出し、多様な価値と出会い、確かな知識のもとにコンピテンシーを身につけることを目指します。ICT環境を整備し、留学・国際交流、自己探求課外や同好会など「生徒の居場所・出番」を創出して、人間としての成長を図ります。



### (5) 求められる学校を目指して

「2019年度卒業生アンケート集計報告」では、総合評価で「入学してよかった」は過去最高の93.3%となりました。本校のこれまでの教育活動の成果として受け止め、今後も本校を選んでくれた生徒を「一人も取り残さない」教育活動を推進してまいります。



グローバル化と科学技術の発展により、世界は目まぐるしく変化しています。情報通信技術の進展等により、世界中の様々な「壁」がなくなりました。現在の仕事の約半分が人工知能やロボット等に代替可能になるとの予測も出ています。先のことが予測しがたい、前例のない、「答えのない」世界に突入しています。

GSコースはserving **G**lobal society through **S**cienceという理念を掲げ、従来の慣習にとらわれず進取果敢に新しいことに挑戦し、世界中の人々と協働して、科学を用いてグローバル社会の課題解決に貢献できる人間の育成を目指します。

1日研究デーを設け、クロスカリキュラム等によりSTEAM教育（Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育）を行います。また、国境を越えて研究の手法を学ぶなどのイマージョン教育（外国語を教科としてではなく手段としてその他の教科を学習する教育方法）を実践していきます。グローバル社会をリードする教育を行い、日立市の活性化に繋がるような地域に根ざした私学教育を推進していきます。





		2021年(令和3年)	2022年(令和4年)	2023年(令和5年)	2024年(令和6年)	2025年(令和7年)	
<b>100周年記念事業</b>		創立96周年記念式典実施 (新型コロナのため1年延期)			100周年プロジェクト(式典・記念誌・記念事業) 創立100周年記念式典実施		
<b>環境</b>	学習指導要領	新学習指導要領施行					
	1エリアの15歳人口予測	2,043人	2,010人	1,904人	1,865人	1,800人	
県立高等学校改革プランの実施プラン		I期(2020~2023年度) 「中高一貫教育校設置」「類型コース設置、学科の構成変更」			II期(2024~2026年度) 「高等学校同士での共同の学びを推進」		
<b>経営目標</b>	生徒数	ST(含GS):70名・S:60名以上	→				
		A:230名以上	→				
		1年:360名以上	→				
		総生徒数1,080名以上	→				
	奨学生	高学力生徒の獲得SG 3名 SS 20名	→				
		SA以上 1年70名	→				
		スポI種 25名	→				
	施設・設備	ICT環境整備(日立本校・白梅寮・高萩キャンパス2号棟のWiFi整備・Gigaスクール対応)	WiFi整備(4月)	端末の1人1台個別所有・日常利用開始			
		明高館第2寮新設	新設(4月)(48名収容)				
		日立本校体育館耐震工事並びに施設整備(トイレ改修・冷暖房設備)	工事着工(5月)	工事終了(3月)			
創立100周年記念館		記念館建設を検討					
理科室の実験器具設備(一人一台)		→					
教育課程	新学習指導要領に対応した改訂						
教職員研修	スキルアップ研修の充実並びに積極的参加						
<b>教育目標</b>	ブランド化	<b>GSコース新設</b>	<b>GSコース募集開始</b>	<b>1年はSTと同一の教育課程</b>	<b>2年からGSコースが分離</b>	<b>GSコース最初の卒業生</b>	<b>1年からのGSコース開設準備(2026年度開設予定)</b>
		GMARCH合格45名	→				
		早慶合格10名	→				
		茨城大合格35名	→				
		中堅私大(日東駒専 30名、大東亜帝国 50名)	→				
		Aコース大学進学率85%	→				
		全国大会(総体、東関東大会)出場4部以上	→				
		甲子園、選手権、選抜大会で上位進出(全国ベスト8以上の達成)	→				
	世代別代表選手、プロ選手輩出	→					
	国際交流	GS	サイエンスツアー(アメリカ・ロサンゼルス)				
ST・S		海外研修(カナダ・バンクーバー)					
A		海外研修(マレーシア)					
オーストラリア		海外短期語学研修(2週間・15名)					
海外ボランティア活動機会の提供							
中国・スポーツ交流会							
オーストラリア		バーンサイド高校交換留学(1か月・3名)					
インド		リンクル学園交換留学(2週間・5名)					
ハワイ交換留学(1か月・1名)		インド側 教職員・生徒受入					

# 6 全日制 新学習指導要領に対応したコース別教育課程の改訂方針

コース クラス	GS	特進ST	特進S	特進A		
				選抜(トップAA)	A	
スクール・ミッション	「学びに価値を見出し、セルフリーダーシップを発揮できる生徒の育成」		「多様な価値や人間と出会い、豊かな人間性を涵養する学校の創造」			
ブランド化	グローバルフィールドにおいてサイエンスを駆使して社会貢献していこうとする人間を育成。 philosophyは「serving Global society through Science」 〔STEAM教育/イマージョン教育〕	基本フィールドを「国際社会」に設定し、グローバル・コミュニケーション力を育成。  目線は「日立から世界へ」。 〔異文化共生/国際プロジェクト〕	基本フィールドを「地域社会」に設定し、グローバル・コミュニケーション力を育成。  目線は「日立を世界へ」。 〔地域創生/地域共生〕	学びの意義を理解(再発見)し、自己を磨く。多様な他者(自己)と共存する力の育成。  国内トップレベルの文武両道の実践。 〔自己有用(理解)/他者共生〕		
進路目標	自分がやりたい研究ができる大学 (難関大学を中心に海外大含む)	難関国公立大、早慶、GMARCH	茨城大、中堅私大(日東駒専、大東亜帝国)	GMARCH、中堅国公立大、中堅私大	中堅私大、私大、専門学校、就職	
学力目標	①全員が茨城大合格レベル ②上位は難関国公立・私大合格レベル		①全員が中堅私大合格レベル ②上位は茨城大・地方公立大合格レベル		①全員が中堅私大合格レベル ②上位はGMARCH・中堅国公立大合格レベル	
体質強化	実践力と自己分析力を養う			学力の定着を測る		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>河合塾 全統模試(年1回~4回)</li> <li>GPSアカデミック(年1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベネッセ 進研模試(年3回~6回) スタディーサポート(年1回~2回)</li> <li>河合塾 全統模試(年1回~4回)</li> <li>GPSアカデミック(年1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベネッセ 進研模試(年3回~6回) スタディーサポート(年1回~2回)</li> <li>河合塾 全統模試(年1回~4回)</li> <li>GPSアカデミック(年1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベネッセ 進研模試(年2回) スタディーサポート(年2回)</li> <li>スタディサプリ 到達度テスト(年2回)</li> <li>その他 希望者 外部模試</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベネッセ 進路マップ(年2回) スタディーサポート(年2回)</li> <li>スタディサプリ 到達度テスト(年2回)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>反転授業</li> <li>クロスカリキュラム</li> <li>実験・実践・討論重視</li> <li>2コマ連続授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>脳アクティブ授業の研究/実践</li> <li>海外大学入試モデルの先取り対応</li> <li>合格力と人間力を育てる受験指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが自分のペースで学ぶ</li> <li>基礎力を養う「明秀Basic」</li> <li>「Classi」「すらら」で個別最適化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力伸長のための指導体制の構築 (シラバス、授業のPDCA、課題の適正化)</li> <li>スタディサプリと授業内容の連動性の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力養成のための指導体制の構築</li> </ul>	
プレミアム 課外	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入期 英国数</li> <li>高年次 英国歴/英数理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入期 英国数</li> <li>受験期 英国歴/英数理</li> </ul>			
昭明義塾	希望者選抜	希望者選抜	希望者選抜	希望者選抜		
自己探求 課外				探求を通して進路への接続を意識、充実した内容へ		
トップA・A				カテゴリー別目標設定		
多様な教育	総合的な探究の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル探究の時間 グループ探究/個人探究</li> <li>STマインドセット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロトタイプ制作</li> <li>大学での研究計画書の作成</li> </ul>	1年「課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付ける」 2年「問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する」 3年「課題に関わる概念を形成する」「主体的・協働的」「新たな価値を創造する」		
	生徒の居場所・出番	<ul style="list-style-type: none"> <li>水曜日は「1日研究デー」</li> <li>科学オリンピックや各コンテスト等の全国レベル、国際レベルのものに積極的に挑戦</li> <li>本校に来る留学生と積極的に交流</li> <li>インド提携校とオンライン交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>STデモクラシーの実践</li> <li>水曜午後は「グローバル探究」</li> <li>生徒自治組織「学而会」</li> <li>自主サークル活動</li> <li>任意校外研修/校外活動</li> <li>校外コンテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の居場所を作る5のステップ</li> <li>オープンダイアログやワールドカフェをベースにした「クラス会議」や「Sコース活動」</li> <li>外部講師を招聘して学ぶ「学校と社会をツナグ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心感と成長を実感でき、1人1人にスポットライトをあてる指導</li> <li>委員会・特別活動の充実</li> <li>課外活動の活性化(eスポーツ)</li> </ul>	
	留学・国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外サイエンスツアー【アメリカ西海岸・ロサンゼルス】</li> <li>オーストラリア(短期・バーンサイド高校)、インド(リシクル学園)、ハワイ(交換留学) 海外研修</li> <li>海外サイエンスツアーとは別に提携校の交換留学等を利用してもう一か国</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修【カナダ・バンクーバー】</li> <li>各種任意海外研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修【カナダ・バンクーバー】</li> <li>各種任意海外研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修【マレーシア】</li> <li>各種任意海外研修</li> </ul>	

# 特進ST・Sコースの沿革にみる「特進化」の歩み

年度	主な教育目標	特進化推進施策等	特進化推進・STS担当	進路トピック	ST卒業	その他	ST全数
2007 (H19)	「県北一の進学校を目指す」 ・難関大進学を実現する学校 ・面倒見の良い学校 ・いじめ、暴力、非行のない学校	・全コース特進化方針発表 ・プレミアム課外導入 ・特進推進部設置 ・特進推進会議設置	・特進推進部長：矢野 ・進路指導部長：石川	—	—	・STコース開設準備 (特進推進部・進路指導部が担当) ・有力塾講演会(善教舎)	—
2008 (H20)	「県北一の進学校を目指す」 ・難関大進学を目指した進学率の向上する学校 ・面倒見の良い学校(基礎学力) ・いじめ、暴力、非行のない学校	・第二職員室設置 ・学業奨学制推薦導入 ・特進STコース開設 ・カリキュラム改訂 45分授業×8時間＋土曜日4時間		—	—	・ST第1期生入学(15) ・有力塾長講演会 (大みかゼミナール・典和ゼミナール)	15
2009 (H21)	・改革ビジョンの共有 ・進路と学習の指導体制の再構築 ・生徒募集体制の再構築 ・中退者対策 ・特別活動の活性化	・カリキュラム改訂委員会提言 国公立大合格者数を目標化	・特進推進部長：滑川 ・進路指導部長：久賀谷 ・STSコース主任：石川	—	—	・ST第2期生入学(24) ・全体進学率70%超え ・有力塾長講演会(進学塾EXE・水戸アカデミー)	40
2010 (H22)	・中退者対策 ・自己探究課外 ・進学実績の向上 ・就学支援金の対応 ・特別活動の充実	・カリキュラム改訂 選択制を廃し能力別型へと変更		特進STコース初の卒業生を輩出 茨城大6ほか県立医療・法政などに合格	16	・ST3期生入学(30) ・有力塾長講演会(東進育英舎・秀学館)	72
2011 (H23)	・進学実績の向上 ・中退者対策 ・自己探究課外 ・学習環境を整え部活動の加入率UPと実績向上 ・教職員の相互理解と協力	・前年度末に東日本大震災(3月11日)で、年度初めまで臨時休校 被災に対応した受験指導体制づくり		震災年の3年生が受験を迎える 国公立大合格数目標30を初めて達成 筑波・千葉ほか福島県立医科大学医学部も	26	・ST4期生入学(23) ・有力塾長講演会(桜華塾) ・法政大学講演会	77
2012 (H24)	・品格のある学校「生きる力を育む」 ・私学教員としての自覚 ・重点目標の達成 ・穏やかな高大連携	・カリキュラム改訂 学習指導要領改訂にあわせ特進化強化		筑波・千葉・東京学芸。東大挑戦者も GMARCH15	29	・ST5期生入学(16) ・法政大学講演会 ・現役東大生講演会 ・有力塾長講演会(わたなべ英数塾)	71
2013 (H25)	・教職員の資質・能力の向上 ・安定した生徒数の確保 ・進学実績の向上 ・目標管理の推進 ・国際理解教育の推進	・アクションプランM'2017スタート 骨太な全人教育を通して全国区の学校を目指す ・Sコース入学生が増加。初めて2クラス化		アクションプラン初年度 初の大阪ほか筑波・埼玉 GMARCH13	26	・ST6期生入学(25) ・法政大学講演会 ・現役東大生講演会 ・法政大学指定校枠獲得 ・有力塾長講演会(平成進学アカデミー)	68
2014 (H26)	・耐震改修工事：逆転の発想をして悪い環境にあっても教師と生徒が共に 知恵を出し合い難局を乗り越える ・コース主任制の導入を検討 ・電子黒板の活用検討	・7/5/3目標達成(進学率70%・四年制大学50%・国公立大30名) ・STコース入学生が増加。初めて2クラス化 ・STSカナダ修学旅行開始	・特進推進部長：石川 ・進路指導部長：滑川 ・STSコース主任：杉山	3年在籍少数ながら、ほぼ全員国公立合格 4年連続筑波 早稲田、GMARCH22	17	・ST7期生入学(53) ・法政大・中央大講演会	94
2015 (H27)	・教職員の資質・能力の向上 ・安定した生徒数の確保 ・進学実績の向上 ・目標管理の推進 ・国際理解教育の推進	・コース主任制を初めて導入 ・ST2年文理別クラス編成 ・ST定例教科会議(週1回) ・難関大特別指導「昭明義塾」開設	・特進推進部長：綿引 ・進路指導部長：滑川 ・第二職員室責任者：滑川 ・STコース主任：石川 ・Sコース主任：杉山	初の東北ほか埼玉など GMARCH24	24	・ST8期生入学(39) ・ST法政大・中央大講演会 ・中央大学指定校推薦枠獲得 ・昭明義塾開設(1期生) 会瀬青少年の家を拠点として宿泊指導	115
2016 (H28)	・教職員の資質・能力の向上 ・安定した生徒数の確保 ・進学実績の向上 ・目標管理の推進 ・国際理解教育の推進	・二学期制を導入(前期・後期) ・定期考査を4回化(前2後2) ・ST23年文理別クラス編成 ・一般入試を3教科から5教科記述化 ・STコース定例学習指導課会(週1回) ・Sコース定例会議(週1回) ・国公立大学合格者数70超え	・特進推進部長：綿引 ・進路指導部長：神永 ・第二職員室主幹：塙 ・STコース主任：石川 ・Sコース主任：杉山	2年次より文系クラス・理系クラスをつくる文理 別クラス編成を導入 ST国公立大合格数67、茨城14、初の東工・ 早稲田・慶応	51	・ST9期生入学(66) ・法政大・中央大講演会 ・昭明義塾(2期生) 指導拠点を明秀日立高萩キャンパスに移転	156
2017 (H29)	・教職員の資質・能力の向上 ・安定した生徒数の確保 ・進学実績の向上 ・目標管理の推進 ・国際理解教育の推進	・アクションプランM'2017最終年度 ・2年文理混合化クラスに変更 ・ST・S定例会議(月1回) ・ST学習指導課定例会を定例コース会議へ変更(週1回) ・中間・期末考査を学期型から通年5回型へ変更 ・STS3年特編授業開始の早期化 ・S3年ユニット別指導	・特進推進部長：綿引 ・進路指導部長：滑川 ・STS統括：五月女 ・ST主任：石川 ・S主任：杉山	文理分け編成継続 在籍少数ながら大阪・筑波・金沢など GMARCH11	39	・ST10期生入学(62) ・法政大・中央大講演会 ・ST授業見学会実施(水戸アカデミー) ・昭明義塾(3期生)	166
2018 (H30)	・教職員の資質・能力の向上 ・安定した生徒数の確保 ・進学実績の向上 ・目標管理の推進 ・国際理解教育の推進	・アクションプランM'2020スタート ・特進推進戦略会議(月1回) ・ST3年ユニット別指導導入	・特進推進部長：綿引 ・進路指導部長：栗原 ・STS統括：綿引 ・ST主任：杉山 ・S主任：泉田	文理混合クラス編成へ移行 東北・東京学芸、茨城12 ST全員が国公立大出願 GMARCH24	63	・ST11期生入学(64) ・法政大・中央大講演会 ・ST授業見学会(茨進) ・中央大学指定校枠拡大 ・青山学院大学指定校推薦枠獲得 ・夏の学校見学会保護者コースにSTS枠を新設 ・昭明義塾(4期生)。個別指導を行う日立教室を開設し二拠点化	190
2019 (H31) (R1)	・教職員の資質・能力の向上 ・安定した生徒数の確保 ・進学実績の向上 ・目標管理の推進 ・国際理解教育の推進	・特進推進戦略会議(月1回) ・クラッシー導入 ・ST3年目的別クラス編成導入 ・インド短期交換留学開始	・特進推進部長：綿引 ・進路指導部長：栗原 ・STS統括：綿引 ・ST主任：杉山 ・S主任：永井	3年次に受験型にあわせた目的別クラス編成 を導入 国公立40、茨城14 GMARCH2年連続で24	61	・ST12期生入学(54) ・法政大・中央大・青学大講演会 ・秋期ST・S授業見学会を年間4回導入 秋期9月10月各1回、冬期2月2回、9月は荒天により中止 ・昭明義塾(5期生)	179
2020 (R2)	・教職員の資質・能力の向上 ・安定した生徒数の確保 ・進学実績の向上 ・目標管理の推進 ・国際理解教育の推進 ・新カリキュラムの作成 ・アクションプランM'2025の作成	・アクションプランM'2020最終年度 ・新型コロナウイルス感染症拡大による政府緊急事態宣言。 ・4～5月臨時休校・分散登校 ・自宅学習指導にオンライン授業導入 ・STSカナダ国際化研修を沖縄に変更 ・ST1年に「グローバル探究」導入	・特進推進部長：綿引 ・進路指導部長：栗原 ・STS統括：綿引 ・ST主任：杉山 ・S主任：永井	(現在進行中)	(64)	・ST13期生入学(66) ・法政大・中央大講演会 ・ST単独リーフレット発行 ・学校見学会授業体験に「STハイレベル授業」を新設 ・昭明義塾(6期生)	185



# 7 通信制 M'2025の概要

## スクールミッション

- 「学びに価値を見出し、セルフリーダーシップを発揮できる生徒の育成」  
「多様な価値や人間と出会い、豊かな人間性を涵養する学校の創造」
- 新しい発想(イノベーション)を生み出す人材の輩出  
(創造的なスマイルサポーター制度の拡充)

## 経営目標

— Sustainability — (将来も引き続き社会的に貢献できる可能性を持つ)

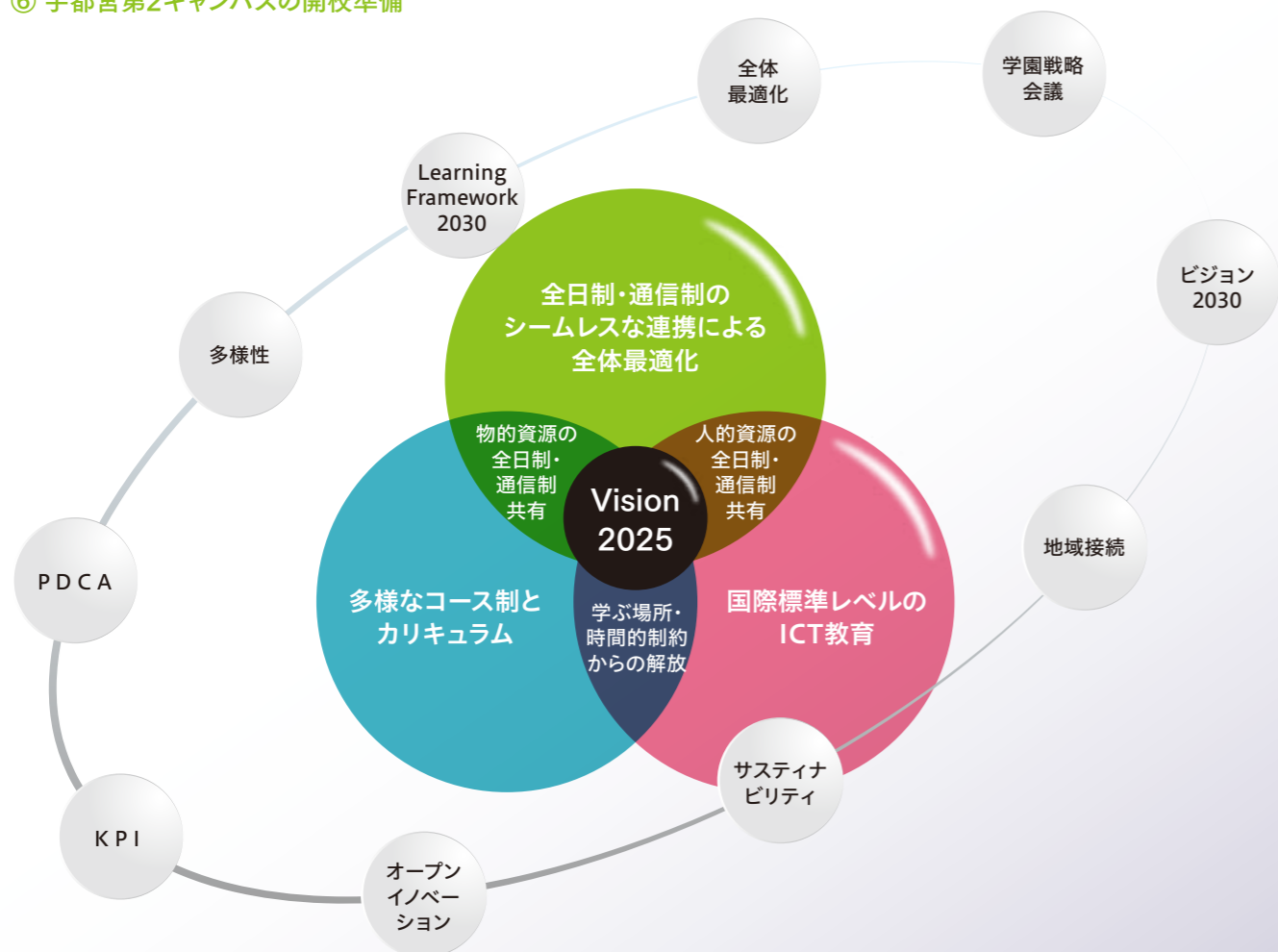
### (1) 生徒数

永続的に発展する学園100周年を見据え、収容定員1,080名確保、全国の私立狭域通信制トップの在籍生徒数を目指すべく、以下の施策に取り組みます。

- ① 見学者の入学率向上(最終目標85%)
- ② 年間入学者における新入学の比率向上(最終目標40%)
- ③ 国際コース・難関大受験コース等の新たなコース制・支援制度を導入
- ④ ロゴ・キャッチコピー等の刷新(2025年)
- ⑤ 不登校等に悩む地域・保護者の情報共有・発信の場創設
- ⑥ 宇都宮第2キャンパスの開校準備

### (2) 全日制・通信制のシームレスな連携

高1相当生徒数の減少を踏まえ、永続的に持続可能な明秀学園を目指して、全日制・通信制のシームレスな連携による学園の有効資源共有化を図ります。また、全体最適化を目的としてハブキャンパスとサテライトキャンパスの2部体制を模索。本校(全日制)およびハブキャンパスを中心としたオンライン授業の展開と、サテライトキャンパスの接続を図ります。



## 教育目標 — Diversity —

### (1) カリキュラムマネジメント

OECDが提唱する「生き延びる力」の育成に必要な以下の3点を教育の柱としたカリキュラムマネジメントに取り組みます。

- a. 新しい価値を創造する力 (Creating new Value)
- b. 緊張とジレンマの調整力 (Reconciling tensions and dilemmas)
- c. 責任をとる力 (Taking responsibility)

また、現在のゼミ学習(13講座)の内容を精査、2022年度の学校設定科目化に向けて準備を進めると同時に、PBL(課題解決型学習)と本校独自のイエナプラン(学年に関係なく、自ら興味のある分野を協働して学びつつ、各キャンパスを自分たちでマネジメントしていくオープンモデルの教育)を展開していきます。



### (2) ICT環境整備

通信制では2020年度よりZoomを用いたWeb会議やWeb英会話、「class」および「すらら」導入、レポート解説動画や面接試験対策動画の配信等に取り組みました。その過程で明らかになった課題に対応すべく、以下の点に取り組みます。

- ① ハブキャンパスにおけるWi-Fi環境整備(同時接続40台)
- ② 生徒用インターネット回線構築
- ③ 天吊り大型プロジェクタ・スクリーン等の整備
- ④ 生徒一人一台のタブレット端末を検討開始
- ⑤ オンライン授業
- ⑥ 全日制の教育資源活用可能なシステム整備



### (3) 新たなコース制・難関大学受験支援制度の導入

2022年度の新コース制移行に向けて、以下のコースの新設を踏まえた抜本的なコース制度の改革に取り組みます。また、経常費補助特別加算分で重要視されている医学部・難関大の合格実績向上を見据えて、難関大学受験支援制度の導入についても取り組みます。

- ① 国際コースの創設(海外留学)
- ② 難関大受験コース





#### (4) 特別活動の充実

部活動では2019年度に女子卓球部が全国大会準優勝（個人）という輝かしい成績を収めました。また、スマイルサポーターは茨城国体におけるボランティアに積極的に参加したほか、スポーツ大会を自ら企画、職員会議に提案するなど、自主的な活動が見られました。今後は文化部の活動拡充を筆頭に、以下を目標として特別活動の拡充に取り組んでいきます。

- ① 運動部の全国大会入賞実績毎年1部以上
- ② 文化部の全国大会入賞実績毎年1部以上
- ③ 学生によるキャンパスマネジメント、  
オープンイノベーションを視野に入れたスマイルサポーター制度の拡充



#### (5) 進路指導

以下の重点項目に取り組むことで、生徒一人ひとりの進路確立はもとより、医学部・難関大への進学者を輩出することにより、本県の活性化に寄与するよう努めます。

- ① 「classi」学習教材の有効活用
- ② 「すらら」の本格導入
- ③ 全日制STコース教員との連携によるハイレベル受験指導
- ④ オンライン受験指導
- ⑤ オンライン英会話（週1回実施中）



##### 〈主な進路実績〉

〔国公立大〕 茨城大・福島大・宇都宮大・信州大・鳥取環境大

〔私立大〕 慶應義塾大・早稲田大・上智大・東京理科大・明治大・立教大・法政大・獨協大・津田塾大・成蹊大・日本大・駒澤大・東洋大・専修大・大東文化大・國學院大・神田外語大・東海大・帝京大・国士舘大・多摩美術大・茨城キリスト教大・常磐大 ほか

〔就職〕 (株)水戸京成百貨店・(株)LIXILリアリティ・日産自動車(株)・陸上自衛隊・茨城交通(株)・(株)JA常陸エネルギーライフ・佐川急便(株)・本田技研工業(株) ほか

#### (6) 教職員研修

教職員のデジタルスキル向上のためのICT教育研修のほか、以下の研修に年4回以上取り組むことで、各自の資質向上に努めます。また、大学への講師依頼を通じた高大連携の推進にも取り組みます。

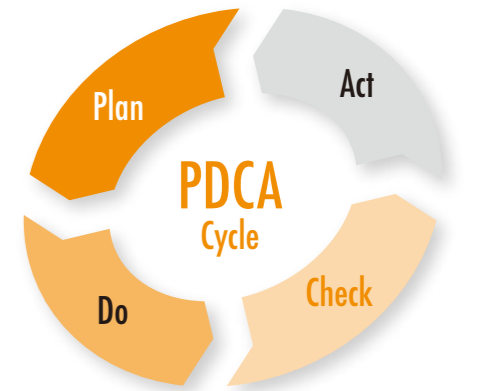
- ① 特別支援教育研修
- ② 学習指導要領に係るカリキュラムマネジメント研修
- ③ 課題解決研修
- ④ 行動心理学等の心理学研修
- ⑤ 大学入試改革への対応に係る研修



#### PDCA

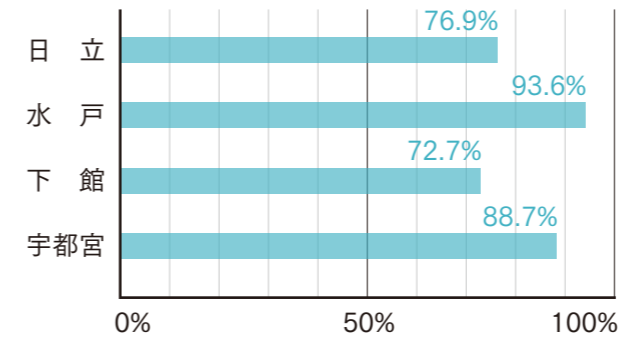
##### 満足度調査の実施・フィードバック

本校通信制では、これまで卒業時に生徒・保護者対象の満足度調査を実施してきました（下グラフ参照）。2020年度からは全生徒・保護者への「classi」導入を進め、満足度調査も全生徒・保護者対象に年2回実施、非常に参考になる意見を頂戴しております。今後は頂戴したご意見を参考にアクションプランを適宜修正していくオープンイノベーションを進めていくと同時に、各実施項目におけるKPIの具体化・可視化を推進することで、本アクションプランのPDCAサイクルを確立します。



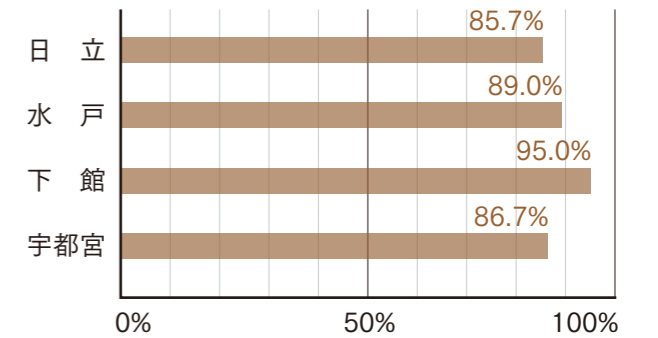
##### ◆生徒満足度調査結果(2020.3)

「明秀日立通信制に入学して良かったですか？」



##### ◆保護者満足度調査結果(2020.3)

「明秀日立通信制に入学させて良かったですか？」





# 8 通信制 M'2025『図解』

		2020年(令和2年)	2021年(令和3年)	2022年(令和4年)	2023年(令和5年)	2024年(令和6年)	2025年(令和7年)	2030年(令和12年)	
外部環境	高1相当人口予測	日立Cエリア (日立・北茨城・高萩)	2,207人	2,041人	2,045人	1,970人	1,873人	1,879人	1,549人
		水戸Cエリア (水戸・ひたちなか・笠間・那珂・東海)	5,394人	5,238人	5,453人	5,222人	5,157人	5,349人	4,672人
		下館Cエリア (筑西・桜川・下妻・結城)	2,167人	1,985人	2,137人	2,034人	2,007人	1,865人	1,712人
		宇都宮Cエリア (宇都宮・鹿沼・那須塩原)	6,765人	6,627人	6,633人	6,666人	6,621人	6,514人	6,040人
	他校の動向ほか	太田一・鉾田一・鹿島・龍ヶ崎一・下館一が中学併設 岩井と坂東総合が統廃合	つくば市立筑波西中学跡地にS高開校 土浦日大高が通信制開校 水戸一・土浦一が中学併設 勝田が中等教育に再編	水海道一・下妻が中高一貫 石下紫峰・結城一が外国人生徒支援体制	つくば工科が改編 友部がIT専科(定時制)				
経営目標	目標生徒数	715名	765名	775名	810名	805名	815名	870名	
		日立C 水戸C 下館C 宇都宮C	日立C 水戸C 下館C 宇都宮C	日立C 水戸C 下館C 宇都宮C	日立C 水戸C 下館C 宇都宮① 宇都宮②	日立C 水戸C 下館C 宇都宮① 宇都宮②	日立C 水戸C 下館C 宇都宮① 宇都宮②	日立C 水戸C 下館C 宇都宮① 宇都宮②	日立C 水戸C 下館C 宇都宮① 宇都宮②
		155 235 100 225	155 260 105 245	145 265 105 260	145 265 105 260 35	145 265 100 240 55	135 275 90 240 75	110 285 120 240 115	
	施設		キャンパスのハブ化・サテライト化を検討	全通の資源共有 ハブキャンパス環境整備	宇都宮第2キャンパス開校				
	生徒募集	教員対象説明会 (宇都宮・水戸・下館)	宇都宮市立中学校進路指導 研究部会とのパイプ強化 (地元アドバイザー)	宇都宮第2キャンパス 説明会・中学校訪問強化					
	見学者入学率	入学率80%目標	入学率80%目標 課題・対策検討				入学率85%目標	入学率85%維持	
	ブランディング	ミッション再定義	サポーター制度拡充含めた 本校独自の魅力検討 宇都宮の広告媒体強化	新カリキュラム移行時に イメージ戦略刷新 宇都宮の広告媒体強化	宇都宮の広告媒体強化				
	組織改革	全通連携模索	学園の戦略立案組織による 課題分析・戦略立案	M'2025のPDCA推進	組織改編による全通のシームレスな 連携促進			全通のシームレス化による 新たな学園の創出	
	カリキュラムマネジメント	ゼミ学習拡充(13講座)	新学習指導要領移行準備 ゼミ学習の学校設定科目化	プログラミング教育必修化 学校設定科目導入	新学習指導要領への移行 新たな評価方法検討		学校設定科目の拡充		
	コース制	国際コース(仮称)検討	新コース制度の検討 難関大学受験支援制度の検討	新コース制度に移行	満足度調査による検証				
教育目標	ICT環境整備	Zoom・classi導入 「すらら」試験的導入	ハブキャンパス環境整備 ・生徒用インターネット回線 ・生徒用Wi-Fi環境(40台接続) ・天吊りプロジェクタ ・スクリーン	本格的運用 全日制ハブキャンパスサテライト キャンパスのスムーズな接続 生徒用タブレット端末支給検討			生徒のICT教育環境が OECD平均レベル到達		
	オープンイノベーション	サポーターの活動内容拡充 (スポーツ大会の企画運営) classiによる満足度調査	地域との連携模索 サポーター制度の改革	不登校関係者の地域交流の 場を創設	サポーターによる キャンパスマネジメント開始	クローズドイノベーションからの 脱却	オープンイノベーションによる 新しい「明秀日立」の創出		
	進路・キャリア教育	業者に依存しない本校 独自のキャリアガイダンス Web英会話(全日制連携)	全日制STコース担当との 連携強化 難関大学受験支援制度を含む 予備校との連携模索	難関大学受験支援制度導入		国公立・難関私大に 毎年1名以上の進学実績	国公立・難関私大に 毎年2名以上の進学実績		
	教職員研修	ICT研修・特別支援教育研修	各種研修を年4回以上実施	ICT・課題解決・特別支援 教育・学習指導要領・行動 心理学 ほか	研修内容の精査				
	特別活動	女子卓球(全国準優勝)、 ほか男子卓球部、柔道部、 陸上部が全国大会出場	スポーツ活動・文化活動に おける全国大会入賞に向けた 取り組み		スポーツ・文化活動ともに 全国大会入賞実績 各1部	スポーツ・文化活動ともに 全国大会入賞実績 各1部	スポーツ・文化活動ともに 全国大会入賞実績 各2部	スポーツ・文化活動ともに 全国大会入賞実績 各2部	
	卒業率	96.6%	100%目標	100%目標	100%目標	100%目標	100%目標	100%目標	



# 本校の歩み

## 助川裁縫女学校・助川高等家政女学校

1925	助川裁縫女学院開校(9月5日 創立記念日)
1926	助川裁縫女学校設立(~1943年)
1931	助川高等家政女学校設立
1945	艦砲射撃・爆撃により校舎焼失
1946	校舎敷地を現在地に移す(翌年、木造平屋建校舎落成)



1933年(昭和8年)和裁授業

## 日立女子高等学校

1948	学制改革により日立女子高等学校(普通科・別科)に移行		
1952	商業科併設		
1954	家庭科併設		
1955	創立30周年記念式典 創立30周年記念講堂落成(現小体育館)		
1956	木造2階建校舎一部新築(翌年完成)		
1963	理事長荒川まん、教育功労者として藍綬褒章授与(翌年胸像建立)	1954年(昭和29年)洋裁授業	
1964	別館特別教室(現1号館)新築		
1965	家庭科募集停止、普通科に類型(Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類)導入		
1967	インターハイ県予選でバスケットボール部初優勝 佐藤啓子選手がインターハイ体操競技種目別跳馬で優勝		
1972	新体育館兼講堂落成(現体育館)		
1973	本館(現2号館)工事完了(1962年一部新築から3期の工事で完成)		
1974	茨城国体で本校体育館をバスケットボール試合会場として使用		
1980	普通科に第Ⅳ類型(体育コース)を新設		
1982	普通科第Ⅲ類型(家庭科)募集停止、体育コースが第Ⅲ類型となる		1975年頃(昭和50年頃)生物授業
1983	白梅会館完成		
1987	木造校舎跡地に西校舎(現1号館)完成 『学校沿革誌1925-1987 白梅』刊行 インターハイ県予選で卓球部初優勝		
1992	普通科、類型をコースにすべて改称(進学・教養・体育コース) 書道部全国高等学校総合文化祭沖縄大会出場		
1993	商業科が2コース制となる(情報・商業コース) インターハイ茨城県予選でソフトボール部初優勝		
1995	創立70周年記念式典、『70年のあゆみ 白梅』刊行	1993年(平成5年)修学旅行 韓国	

## 明秀学園日立高等学校

1996	男女共学制導入、商業科商業コース募集停止 教育の本旨及び教育の指針制定 法人名を「学校法人明秀学園」・学校名を「日立高等学校」に変更 二松学舎大学と特別提携  創立70周年記念館として 「晃耀閣」(現3号館)竣工	
		1996年(平成8年)茨城新聞
1997	普通科進学・教養コースを特進・進学コースに改称	
1999	「有鄰館」(現4号館)竣工 書道部全国高等学校総合文化祭山形大会出場	
2000	学校名を「明秀学園日立高等学校」に変更	
2001	校舎の名称変更 1号館(旧西校舎・別館)、2号館(旧本館)、3号館(旧晃耀閣)、4号館(旧有鄰館)	
2002	美術部全国高等学校総合文化祭神奈川大会出場	
2003	通信制課程を併設 留学生劉一行選手がインターハイ卓球 女子シングルスで優勝	
2004	普通科特進コースを特進Sコースと特進Aコースに分ける アテネオリンピック女子バスケットボールに卒業生矢代直美選手が出場	







2017	<p>国公立大学合格者が初めて70名を超える(72名)</p> <p>卒業生小滝水音が女子ゴルフプロテストに合格</p> <p>明高館増設工事(翌年完成)</p> <p>美術部全国高等学校総合文化祭宮城大会出場</p> <p>通信制コンピュータ部全国パソコン技能競技大会団体・個人の部出場</p> <p>通信制コンピュータ部全国毎日パソコンコンクール個人の部(日本語・高校B部門)出場</p>	
2018	<p>第90回記念選抜高等学校野球大会代表に選出される</p> <p>『アクションプランM'2020』刊行</p> <p>特進Bコース募集停止</p> <p>増田陸が読売巨人軍にドラフト2位で指名される</p> <p>リシクル学園(インド)とフレンドシッププログラム提携締結</p> <p>書道部茨城新聞紙上展茨城県知事賞受賞</p> <p>通信制コンピュータ部全国高等学校ワープロ競技大会団体の部出場</p>	
2019	<p>国公立大学合格者79名(創立以来過去最高)</p> <p>女子ゴルフ部3年連続全国高等学校ゴルフ選手権大会出場</p> <p>吹奏学部東関東大会に初出場</p> <p>サッカー部3年連続全国高等学校サッカー選手権大会出場</p> <p>書道部全日本書芸文化院全日本高等学校書道コンクール最優秀大賞受賞</p> <p>令和元年度 全国高等学校定時制通信制体育大会 第52回卓球大会準優勝</p> <p>通信制コンピュータ部全国毎日パソコン技能競技大会個人の部(日本語・高校B部門)出場</p>	   
2020	<p>新型コロナで臨時休校・オンライン授業</p> <p>スクールミッション策定</p> <p>新学習指導要領に伴う教育課程の改訂</p> <p>通信制コンピュータ部 全国パソコン技能競技大会 個人の部出場</p>	 

## 確かな明日をめざして

今回のアクションプラン(M'2025)は、現時点までの地域や社会情勢の分析をもとに策定されました。最初のアクションプランを作成した2013年度の1エリアの15歳人口は2,718人でしたが、2025年度は1,800人、2034年度は1,228人となることが予想されます(「茨城県の年齢別人口(茨城県常住人口調査結果)四半期報 1月1日現在」をもとに計算)。

「失われた30年」とも評される長期停滞が続く中で、新型コロナウイルスが世界を大きく揺るがしています。2020年1月16日国内初の感染者が発表され、2月27日安倍首相は全国の小中高に3月2日から春休みに入るまで臨時休校とするよう要請しました。本校も3月2日から臨時休校となり、4月に入り授業が再開したのもつかの間、7日政府は7都府県を対象に緊急事態宣言を発出しました。茨城県は含まれていませんでしたが、大井川知事は13日県内すべての県立学校を休校にすると発表し、15日県立に準じて本校も再び臨時休校となりました。その後WEB授業や分散登校を経て、6月8日から通常の授業が再開しました。

しかし、全校集会、体育祭、全校応援、修学旅行等の学校行事は未だ行える状況にはありません。今回のコロナ禍で生徒と直接触れ合えることの大切さを痛感させられましたが、ウィズ・コロナの時代に対応したICTの利活用を今後進めていかなければなりません。時間と場所の制約を超えた学びの場の創造が求められる時代になったともいえます。

2025年度まではM'2025の方針のもとPDCAサイクルを回して学校経営を進めてまいります。今後予想される社会の激変に対応したM'2030策定に向けた準備にも早急に着手していきます。過去幾多の試練も理事、評議員、教職員、同窓生、保護者、生徒が一体となって乗り切ってまいりました。「チーム明秀」が本学園の伝統であり、この伝統を生かしながら経営と教育、全日制と通信制の垣根を超えた更なるシームレス化をはかり、どのような荒波にも負けない強固な基盤を作り上げていく所存です。

学校法人 明秀学園  
明秀学園日立高等学校